



Weekly

尾張旭 ロータリークラブ

集まろう・語ろう
楽しもう

・会長 古橋 裕志 ・幹事 仲澤 昌容 ・クラブ会報 福岡 健
 ・例会日 毎週金曜日 12:30 ・例会場 〒488-0801 尾張旭市東大道町原田2570-3
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail: jim@owariasahi-rc.org URL: http://www.owariasahi-rc.org

本 日 第2144回 2015年3月22日(日) No. 2030

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング 「君が代」・「奉仕の理想」

東尾張分区 インターシティ・ミーティング

(12RC合同例会) 於ウェスティンナゴヤキャッスル

基調講演:井沢 元彦氏

テーマ:「歴史から見る日本の将来」

前 回 第2143回 2015年3月13日(金) 記 録

○齊 唱:「それこそロータリー」

○ゲスト: 地区国際奉仕委員会 委員

(瀬戸RC) 山田 拓君

出席者: 会員24名中19名出席 出席率79.16%

前々回補正出席率 2月27日分95.83%

会長あいさつ 古橋 裕志

桃の節句、端午の節句は古代中国より伝わり、その由来で**桃の節句**は三月最初の己(み)の日に祓いを行う事がしきたりで、三月三日を祓いの日としたそうです。「祓」とは神に祈って不祥事や禍いを避ける儀式で桃には魔除けの力があり、桃の木で作った弓を棘の矢で行う行事です。**端午の節句**は端はハジメの意味で五月の最初の午(うま)の日を端午、それが五月五日に固定されたそうです。一年のうちで五月は最も勢いの強い月で午の日は特に強く、時刻にしても正午というには頂点で、まがまがしい勢いも絶頂期でそれを静めるのが端午の節句の行事だそうです。では「粽」の起源は楚の国の高名な人物が怨を抱いて川に身を投げ、その怨霊があらこちから祟り、人々が竹筒に米を入れ、川に投げ入れて静めた事が起源だそうです。

その他この五月五日は古代中国では三大怨霊といわれる事がほぼ200年ごとに出現しているそうです。お正月といえば餅を連想しますが、おせち料理に羊羹を入れる地方もあり、江戸時代は季節の節目ごとにまた、年賀の品として羊羹が大切な相手の贈答品でした。

三月三日は桃の節句に菱餅を供え、色は赤、白、緑が主体で赤い餅は解毒作用のあるクチナシの実で先祖を尊び、厄を祓い、健康を祝う意味、白い餅はヒシの実を入れ清浄を表す、緑の草餅は当初は母子草を使用、いつしかヨモギに変わり、新芽によってケガレを祓う意味だそうです。

五月五日は端午の節句で江戸時代は柏餅、京都、大阪では粽を食べる習慣で武家社会では柏の葉の新芽が出てくるまで古い葉が落ちない特徴があり、そこに子孫繁栄という縁起を結びつけ柏餅を近所縁戚に祝儀として贈られていました。

秋には月見として中国より平安時代に伝わり、江戸時代には庶民にも十五夜は当初、サトイモを供えていたが、江戸後期に団子を供え江戸では丸い形、京都、大阪ではサトイモの形をした円錐形が親しまれた。

十一月十五日は七五三参りとして男児は三歳、五歳。女児は三歳、七歳に氏神様にお参りする行事で徳川綱吉の長男の健康を祈ったのが始まりで、千歳飴はお宮参りの土産として、親戚や近所に配られたそうです。「ちとせ」は子供の健康と成長、長寿を願う気持ちで浅草の飴屋が考案したそうです。

こうして、見ますといつの時代にも親が子供や孫を無事に成長してくれる事を願い、期待してくれる様が込められている風習を大事に願いたいと思います。

しかし、ここ近年、親が子を、子が親をという事が多く報じられ「怨と孝」を大切に。

識字率向上・OFDY月間

	3月27日(金)	4月 3日(金)	4月10日(金)	4月19日(日)
例 会 予 定	卓話担当者: 菊田利昭君 卓話者: 〃 演題: 「相続の注意点」	卓話担当者: クラブ会報委員会 卓話者: 福岡 健クラブ会報 委員長 演題: 「クラブ会報の編集に ついて(勉強会)」	卓話担当者: プログラム委員会 卓話者: 森井晴生君 演題: 「雑誌月間に因んで」	17日(金) 振替 春の家族会 於伊勢方面 商工会館前 AM8:00出発

幹事報告

- ・3/6 第12回現・次期理事役員会 於商工会館 古橋裕志会長以下11名出席
- ・3/11 尾張旭市共同募金委員会 於保健福祉センター 古橋裕志会長出席
- ・本日の会合：なし
- ・次回の会合：3/22 IM (12RC合同例会)
- ・例会変更のお知らせ：掲示板をご覧ください。

ニコボックス

○地区国際奉仕の卓話をさせていただきます。

- 地区国際奉仕委員会 (瀬戸RC) 山田 拓君
○誕生日を祝っていただき 金森 俊輔君
○本日は地区国際奉仕委員会より講師に山田 拓様をお迎えしました。よろしくお願いたします。
- 山田 直樹君
○地区国際奉仕委員会 委員 山田 拓君、ようこそ卓話を楽しみにしています。 古橋 裕志君
飯田 幸雄君、加藤 清久君、森井 晴生君
○名残り雪 思いつくままに 積み重ね 古橋 裕志君
○高島さん、本日のBGM、映画音楽特集、楽しく聴かせていただいています。 加藤 清久君
○孫が大学に入学できて。 加藤 勇夫君
○江尻君、色々お世話になりました。 箕輪 良孝君
○富田さん、おいしい精力たまごを頂き、ありがとうございました。子供が生まれるといいですが？ 福岡 健君
○年度末の仕事もひとくぎりできました。少し色々遊びたいと思います。 江尻 豪君
○お忙しの君 金森 俊輔君

バナー交換



2015年3月10日
RID2800地区 山形南RC
箕輪 良孝君

卓話

「地区国際奉仕委員会の活動と識字率」

地区国際奉仕委員会 委員 山田 拓



本年度の地区国際奉仕委員会の活動内容をご報告します。昨年11月に名古屋栄にて開催されました『WFF ワールドフード+ふれ愛フェスタ』にご協力頂きありがとうございました。「カンボジアの子どもたちに命の水を、笑顔の未来を」というテーマで行われ、大勢の方にご参加、ご協力を頂きました。おかげさまで、

270万円近い寄付金が集まりました。

この内、100万円を継続事業としてのポリオ撲滅のための基金とし、残りのお金と各クラブで、世界奉仕活動を地区国際奉仕委員会に依頼されました予算を合わせ、カンボジアの簡易水道支援事業にと、地区国際奉仕委員会がカンボジアのアンコールワットにあるロータリークラブと打ち合わせを重ねています。上手いけば、本年度の6月には譲渡式が行われる予定です。国際奉仕に関しましては、単年度では片付けられない事業が多く、過去の事業の結果確認も行っています。

本年度は、以前あった日泰愛知奨学金を使い、タイのチェンマイとウトラジットにテニスコートなどの運動施設建設の確認に11月、メンバー9名で視察に参りました。また、1月には2010年度に2760地区と台湾3500地区と共同で、台湾 新竹県の原住民集落の子供達に対する識字率向上事業として承認され、グローバル補助金を利用した事業との確認に、台湾花蓮へメンバー6名が視察確認をして参りました。花蓮県教養黎明院キルト教育支援で、現地にて感謝されました。

もちろん、旅費に関しましては実費支払いで参加していますが、参加メンバーは、確実に進んでいる事業を見て、聞いて納得しています。もし、ご希望がありましたら、先ほどお話ししましたが、6月のカンボジア事業の視察にご参加頂くと、国際奉仕委員会の内容が、もっとお判り頂ける事と思います。

さて、今月は識字率向上月間ですので、識字率の事を残りの時間で、お話しさせていただきます。

ノーベル平和賞を受賞されたマララ・ユスフザイさんをご存知かと思いますが、

○ペンは剣よりも強し

○女の子にも教育を、学校に通う権利を

○一人の子供、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン これが世界を変えるのです。と言葉を残し、国連などで子女教育の必要性を訴えています。

今、世界の識字率はアフリカとアジアが圧倒的に低い現状です。ネパールの女性は12歳で結婚し16歳で子供を出産しましたので、日々ただ家事をこなすだけの人生であったので、文字の読めない、文字の書けない悲しさを感じ寺小屋に通いはじめて、読み書きができるようになり、同じような境遇の女性たちを一人でも救いたいと思ったそうです。

ネパールでは、女性の44%が非識字者です。読み書きができない理由には、色々ありますが、学費が払えない、近くに学校がない、女の子は学校に通わなくていい、そして先生が足りない、先生を育てる方が少ないとあります。幾つかの悪循環を断ち切らなくては識字率は上がりません。

国連は、1948年に世界人権宣言しましたが、中々教育状況は改善されていません。ロータリークラブでは、1986年に識字率向上を10年間の強調プログラムに設定しました。そして1997年7月の理事会で毎年7月を識字率向上月間に決めました。今は3月になっております。最近の試みとしては、モバイル機器を利用して識字率の向上にあたっている国もあります。

私たち地区国際奉仕委員会も、ポリオの次は識字率と考え、これからの事業を進めていく予定です。

最後に、各クラブの皆様には、日ごろから国際奉仕事業を行っていただいておりますが、単独では行えないというクラブの方もおみえです。地区国際奉仕委員会では、各クラブの方々から委員会費をお預かりして、まとまった奉仕活動などを行っております。

今後も地区プロジェクトにご理解とご協力と参加のお願いをいたします。ご清聴ありがとうございました。